

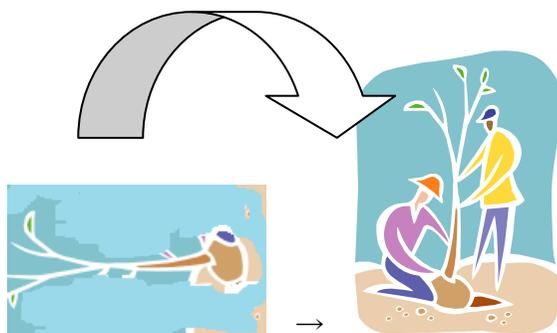
## スペイン語ガイドブック

# 再帰動詞

### ■ 1. 再帰動詞とは

はじめに他動詞が使われた文を見ましょう。たとえば他動詞の *levantar* 「起こす」は次のように使われます。

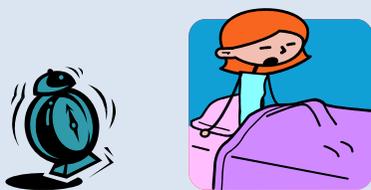
- *Te levanto.* 「私は君を起こす」
- *Me levantas.* 「君は私を起こす」
- *Las levanto.* 「私は彼女たちを起こす」



**Lo levantamos.**

一方、次のような構文もあります。

- *Me levanto.* 「私は私を起こす」 → 「私は起きる」
- *Te levantas.* 「君は君を起こす」 → 「君は起きる」



**Me levanto a las seis.**

このように目的語の代名詞と動詞が人称・数において一致した動詞を再帰動詞といいます。この場合意味は「起こす」という他動詞ではなくて、「起きる」という自動詞に変わります。再帰動詞にはこのような意味の変化だけでなく他にも様々な用法があります。→ 3

## ■ 2. 再帰動詞の活用形

この動詞の直説法/現在の活用形は次のようになります。

levantarse 「起きる」		
	単数	複数
一人称	me levanto	nos levantamos
二人称	te levantas	os levantáis
三人称	se levanta	se levantan

再帰代名詞は一・二人称では弱勢代名詞(目的語の代名詞)と同じ形です。三人称では単数でも複数でも **se** という形になります<sup>1</sup>。他の時制・法でも同じように再帰代名詞が使われます。辞書などで再帰動詞の不定形は **se** の形で代表します。

## ■ 3. 再帰動詞の用法

再帰動詞には次のような様々な用法があります。次の(1)から(5)は全人称で変化し、行為者(主語)の主体性が保たれます。これを「基本用法」と呼びます。(6)と(7)は三人称に限られ、行為者が見えません。これを「三人称用法」と呼びます。

### (1) 直接再帰と間接再帰

再帰代名詞に「自分」という意味が残っています。

- Mi hermana **se miraba** en el espejo. // 私の姉は鏡で自分の姿を見ていた<sup>2</sup>。☆hermana 姉(または妹) mirar 見る espejo 鏡
- ¿**Te has lavado** la cara? // 君は顔を洗ったの?<sup>3</sup>☆lavar 洗う cara 顔

<sup>1</sup> Lo(または Le) levanta. と言うと再帰動詞ではなく、「彼は彼(別の人)を起こす」という他動詞の意味になります。なお、**se** は Se lo doy.(私は彼にそれをあげる)のように間接目的語の三人称の代名詞の別形としても使われるので注意しましょう。

<sup>2</sup> 「自分を見る」という意味で、直接補語の再帰用法。

<sup>3</sup> 「自分に(→自分の)顔を洗う」という意味。間接補語の再帰用法。

## (2) 相互用法

複数形で用いられ、「お互いに」という意味になります。

- **Últimamente nos comunicamos** por el correo electrónico. // 最近では私たちは E メールで連絡し合っている。☆**últimamente** 最近、このごろ **comunicar** ...に通信する、連絡する **correo electrónico** Eメール。



## (3) 自動詞の意味に変化

他動詞が自動詞の意味に変わる。

- Yo no tengo la menor intención de **hacerme** político. // 私は政治家になるつもりはまったくありません<sup>4</sup>。☆**tener** 持つ **el menor** 最小の **intención** 意志 **político** 政治家
- **Te pones** nervioso fácilmente. // 君はすぐにいらいらする<sup>5</sup>。☆**fácilmente** 簡単に、すぐに **nervioso** いらいらしている

## (4) 意味の変化

再帰代名詞がつくと意味が変化する動詞があります。たとえば **marchar** は「行進する」という意味ですが、**marcharse** では「立ち去る」という意味です。

- ¡Pues **me marcharía** yo solo! // それならば僕一人で出ていくよ! ☆ **pues** それならば **solo** 一人で

## (5) 再帰形専用の動詞

次は必ず再帰代名詞を伴う動詞です。

<sup>4</sup> **hacer** は「...にする」という意味の他動詞だが、**hacerse** になると「...になる」という意味の自動詞に変わります。

<sup>5</sup> **poner** は「...という状態にする」という意味ですが、**ponerse** は「...という状態になる」という意味になります。

- **arrepentirse** (...を[de])後悔する
  - **atreverse** 敢(あ)えて(...[a 不定詞])する」
  - **jactarse** (...を[de])自慢する
  - **quejarse** 「(...について[de])不平を言う」。
- 
- Mi hermana no **se atreve** a salir sola por la noche. // 私の妹はこわくて夜一人で出かけられない ☆**hermana** 姉、妹 **salir** 出かける **solo** ひとりで **por la noche** 夜に
  - **Me arrepiento** de haberlo dicho. // 私はそれを言って後悔している。  
☆**dicho** < decir 言う
  - ¿De qué **te quejas**? — De nada. // 君は何が不満なの?—何にも。☆**nada** 何も...ない

## (6) 再帰受身

他動詞構文の直接目的語にあたる語が主語に変わり、受動態の意味になります。その主語は「事物」に限られ、「人」が主語になることはありません<sup>6</sup>。

- Aquí no **se respetan** mucho las reglas de tráfico. // ここでは交通規則はあまり守られていません。☆**respetar** 尊重する、守る **reglas de tráfico** (複) 交通規則

## (7) 不定主語

**se** が不定の主語の役割をします。「人は」と訳せる場合もありますが、ふつうは日本語の主語を出さないようにすればよいでしょう。この用法は三人称単数に限られます。

- ¿Cuánto **se tarda** de aquí a la estación? // ここから駅までどのくらい時間がかかりますか。☆**cuánto** いくら、どれほど **tardar** 時間がかかる **estación** 駅

## ■ 4. 再帰受身と **ser** 受身

再帰動詞は三人称で受動態の意味になることがあります。これと **ser** を使った受け身文を比べてみましょう。

<sup>6</sup> よってこの用法は三人称（単数と複数）だけに限られます。

(1) どちらも受け身を示しますが、ser 受身は ser が現在形で活用するときなどではあまり用いられず、再帰受身のほうが頻度が高いです<sup>7</sup>。

- Aquí se respetan las reglas de tráfico. ×Aquí las reglas de tráfico son respetadas. // ここでは交通規則が守られている。☆**respetar** 尊重する、守る **reglas de tráfico** (複) 交通規則。

(2) ser 受身では por+行為者を示すことができますが、再帰受身ではほとんど使われません。

- El cuadro 《Guernica》 fue pintado por Picasso. // 『ゲルニカ』の絵はピカソによって描かれた。 ☆**cuadro** 絵 **pintar** 描く

## ■ 5. 再帰受身と不定主語

この二つの用法の違いは微妙です。どちらも三人称でしか使われず、単数では区別がつきにくいのです<sup>8</sup>。

- Esta sopa se llama gazpacho. // このスープはガスパーチョと呼ばれる (受け身) ☆**sopa** スープ **gazpacho** ガスパーチョ

この文は、「人はこのスープをガスパーチョと呼んでいる」のように不定主語で解釈することもできます。

このように受け身と不定主語の差が曖昧になるのは、他動詞の再帰形の場合です。自動詞の再帰形では受け身に意味にならないので、必ず不定主語になります。

- Se trabaja para vivir. // 生きるためには働くものだ<sup>9</sup>。

---

<sup>7</sup> 現在の文でも次のように不定詞ならば ser 受け身も可能です。

- Las reglas de tráfico deben ser respetadas. // 交通規則が守られなければならない。

<sup>8</sup> 動詞の複数形ときは主語に一致しているので受身の意味になります。

- Estas revistas se venden mucho. // これらの雑誌はよく売られる(=売れる) ☆**revista** 雑誌 **vender** 売る

<sup>9</sup> このように再帰動詞は不定主語によって一般化するので、「人は…するものだ」というような義務的な意味になることがあります。

## スペイン語の質問

**\* 授業で扱った再帰動詞の訳し方がはっきり分かりません。Se miraba の場合、「彼女自身を見ていた」と訳すのか、訳出せずに、そのまま「見ていた」と簡略にしているのか、どっちでしょう。**

→この se は再帰代名詞ですから、「自分を、自分の姿を」という意味になります。

**\* 再帰動詞はたくさん用法があるので驚きました。と同時に覚えなければいけないということですが…**

**\* 再帰動詞かどうかの判断が難しいです。**

**\* 再帰動詞は用法が多かったり、日本語との対応があまりなかったりと難しい。**

**\* 再帰動詞は日本語にも英語にもない文法項目で、今までになかったものなので、これからいろいろな文章で再帰動詞にふれて少しずつ慣れて理解していきたいと思う。**

→とくにややこしいのが自動詞化用法と受動態用法です。意味が大きく違いますから注意しましょう。自動詞化はもとの他動詞が「…にする、…させる」という使役的な意味がある場合です。たとえば Me pones nervioso. の poner には「(私を)nervioso にする」というような使役的な意味があります。一方, Venden sellos の vender には「…にする、…させる」という意味がなく、単に「…する」という意味（「売る」）なので自動詞化しないで、受動態になります。受動態は主語が三人称の「物」に限られます。相互用法は「お互いに」という意味ですから主語が複数の場合に限られます。不定主語は典型的には動詞が自動詞の場合です。「意味が微妙に変化する動詞」と「再帰専用動詞」は一定の動詞に限られます。確かに再帰動詞は一筋縄では理解できません。本文や副教材で出てきたときに確認していきましょう。

**\* 「直接再帰用法」と「間接再帰用法」の違いを教えてください。文法用語は未だに苦手です。**

→「直接再帰用法」は再帰代名詞が文の中で直接目的語の役割を果たしていると

きです。たとえば Me lavo 「私は自分の体を洗う」の Me は lavar の直接目的語です。一方、「間接再帰用法」はそれが間接目的語になっています。たとえば Me lavo la cara では la cara が直接目的語で Me は間接目的語です。この文は直訳すると、「私に顔を洗う」となりますが、ふつうは「私は顔を洗います」と訳します。

**\* 再帰動詞の「相互用法」は「相互」と言うくらいなので、意味的にも複数形のみですか？**

→その通りです。「互いに」ということなので主語は複数になります。

### スペイン語の理由

**\* 再帰動詞のところで、受動態用法、不定主語用法というのを学びました。なぜこれらが《再帰》というところに含まれているのですか。**

→受動態用法と不定主語用法が「再帰」に含まれるのは、se という再帰代名詞を使うからです。この se は再帰動詞の他の用法で三人称のときに使われるものと同じです。このように確かに受動態用法と不定主語用法は他の再帰用法とかなり異なります。

**\* もう一つ目の質問は、たとえば授業中の説明で出てきた Se habla español en México. という文章は、スペイン語が「話されている」と受動態用法でも考えられるし、「人は話す」と不定主語用法でも考えられますよね。この二つの分類をひとつにまとめて考えてしまうわけにはいかないのでしょうか？もちろん後者はいつも単数ということがあると思うんですけど。**

→Se habla español en México. という文は確かに「受身」とも「不定主語」とも考えられます。実は両者は根底で繋がっているのです。ただし、Se venden sellos のように他動詞(vender)のときだけです。Se tarda...のような自動詞の場合は受身の解釈ができないので、必然的に不定主語になります。

**\* 自分の体や持ち物に行為が及ぶとき、所有格を使わず再帰動詞を使うのはなぜですか？**

→たとえば、「洗顔する」というとき英語のように Lavo mi cara (=英語 : I wash my face.)のような言い方よりも、スペイン語では Me lavo la cara. という方が普通です。これは、「洗顔する」(lavar la cara)という行為が私に(me)およぶ、という発想です。もし、Lavo mi cara というとき、mi cara という物体に向かって直接 lavar という行為が及んでいる感じがします。たとえば、¿Por qué si lavo mi cara varias veces al día, aún tengo acné? 「一日に何度も顔を洗っているのに、なぜニキビが出るんだろう」という文を見るとその感じがわかると思います。ここでは単に「洗顔する」というよりも、具体的に mi cara をしっかりと意識してそれをゴシゴシ洗っている感じがします。なお、このような言い方は再帰動詞に限らず、相手の体や持ち物に行為が及ぶときにも一般に所有形容詞よりも間接目的語を使います。たとえば、¿Te lavo la cara? 「顔を洗ってあげましょうか？」スペイン語では間接目的語の代名詞、英語では代名詞の所有格、そして日本語ではどちらも示さないのが普通です。比べてみるとおもしろいと思います。

**\* 3人称の再帰代名詞は、なぜ lo や la などではなく se が使われるのですか？  
それから、3人称の再帰代名詞は、なぜ単数と複数が同じなのですか？**

→確かに、一人称と二人称の再帰代名詞(me, te, nos, os) は一般の目的語と同じ形です(Me levanto, Te levantas, ...)。三人称だけが特別です(Lo levanta でなく, Se levanta)。この理由は、一人称(me)と二人称(te)が再帰動詞で使われたとき、それが「自分」の意味になるのに対して、三人称 (lo) だと「自分」という意味ではなく、他の3人称の誰かを指すことになるからです。たとえば、Lo levanta と言え、A という「彼」が B という「彼」を起こす、という意味になります。そこで、再帰代名詞の se を使えば、「彼は(自分で)起きる」という意味を示すことができます。

この便利な se という代名詞の歴史的な由来については次の2つの説があります。第一の説によると、印欧語で、もともとすべての人称で再帰を示すために swe という形が使われていた、ということです。これは日本語の「自

分」と同じですね（「私は自分で起きます」、「彼は自分で起きます」）。今でもロシア語ではそのようになっています。その後、1人称と2人称では、たとえば「私が起きる」ということを示すとき、「自分」というよりも「私」という意味が意識されて、**me** が使われるようになったという説です。Ernout - Meillet [1932:662], Adrados [1975:785ff]

また第二の説によれば、**swe** は3人称の他動詞の文と再帰動詞の文を区別するために後からできた形だということです。それがさらに後になって、古スラブ語（そして現代ロシア語）で、すべての人称に使われるようになった、と考えられます。Adrados-Bernabé-Mendoza [1998:69]

いずれにしても、**se** は「再帰」を示すマークにすぎなかったもので、とくに人称変化(**me, te, lo, ...**)をする必要はありませんでした。このことから **se** に複数形がない理由もわかると思います。つまり、**se** は「再帰」を示すマークだったので、わざわざ複数形にしなくても、それだけで「再帰」という意味が間違いなく伝わるからです。

fin